

人口の動態について

【目次】

1 最新の人口動態

(1) 総人口の長期的推移	…	P1
(2) 年齢3区分別人口の推移	…	P2
(3) 自然増減・社会増減の推移（日本人住民）	…	P3
(4) 合計特殊出生率の推移	…	P4
(5) 女性人口の推移（15～49歳）	…	P5
(6) 年齢別・地域別（県内・県外）の社会増減の内訳	…	P6
(7) 地域ブロック別の社会増減の内訳（男女別）	…	P7

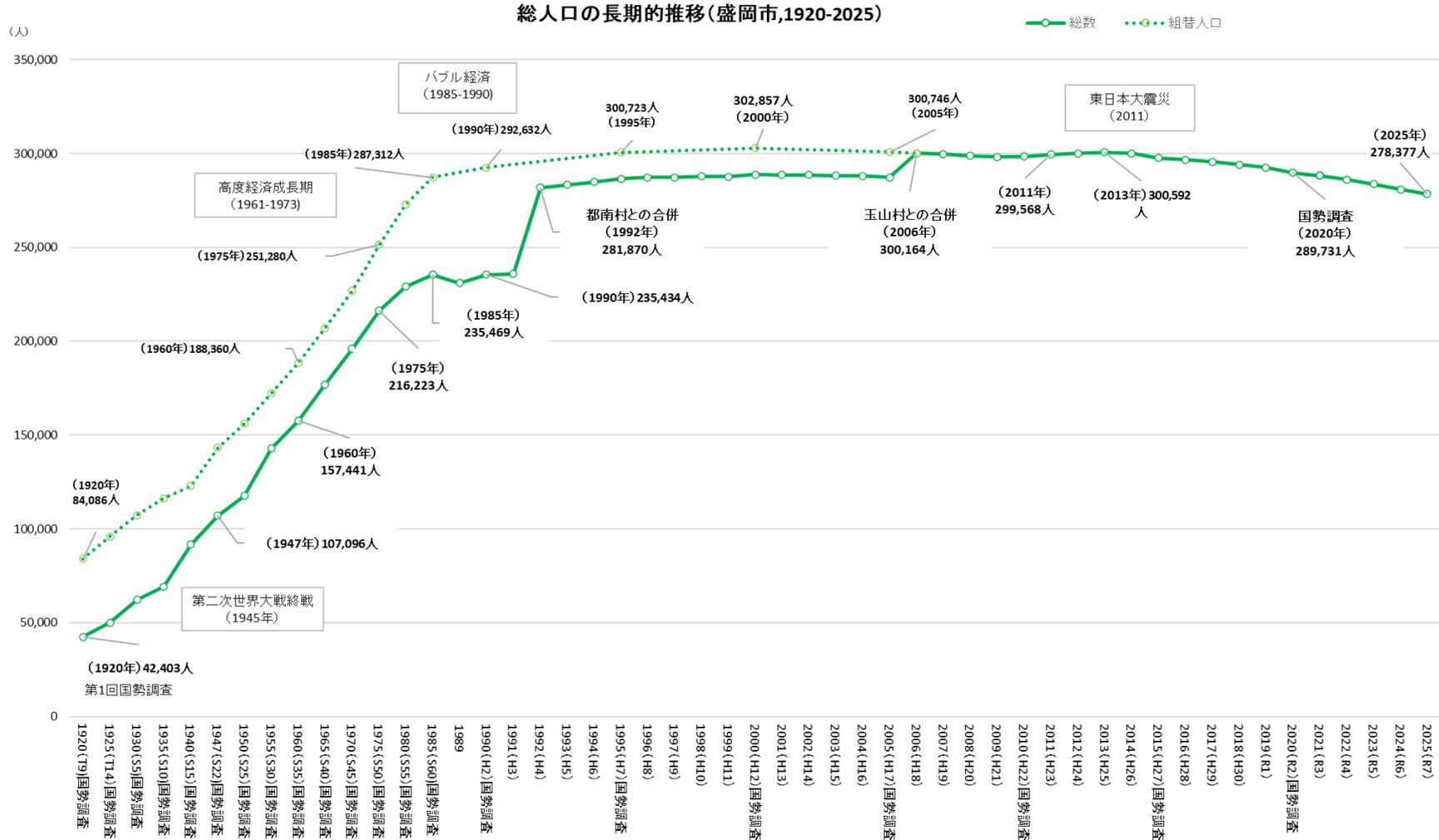
2 Uターンに関する意識調査の分析結果

(1) 概要・分析結果	…	P8
(2) 主な転出理由（男女別）	…	P9
(3) 「市外に希望する就職先があった」人の就職先への主な希望（男女別）	…	P10
(4) ① 盛岡市へのUターン意向（男女別・出身別）	…	P11
(4) ② 盛岡市へのUターン意向（男女別・年齢別）	…	P12
(4) ③ 盛岡市へのUターン意向（男女別・世帯年収別）	…	P13
(4) ④ 盛岡市へのUターン意向（男女別・結婚有無別）	…	P14
(5) 「Uターンに肯定的な意見を持つ人」が戻るための条件（男女別）	…	P15
(6) Uターンをしやすくするために必要な支援（男女別）	…	P16
(7) 市外に希望する就職先があった人のUターンの条件が揃った場合の希望業種（男女別）	…	P17
(8) 学生へのインタビュー調査結果（質問項目及び主な回答結果）	…	P18～19

1 最新の人口動態

(1) 総人口の長期的推移

- 本市の人口は、平成4（1992）年の都南村との合併、平成18（2006）年の玉山村との合併を経て、長期的に増加を続けてきた。合併前の村を含めた組替人口*では平成12（2000）年がピークだった。
- 平成17（2005）年から減少傾向に転じたが、東日本大震災が発生した平成23（2011）年以降、沿岸部からの避難者等の転入により一時的に微増した。
- 平成27（2015）年以降は減少が加速し、現在に至るまで減少が続いている。
- 全国では平成20（2008）年をピークに総人口が減少しており、全国よりも8年早く減少局面に入っている。（組替人口との比較）



資料：国勢調査、岩手県人口移動報告年報（10月1日現在 推計人口） <https://www3.pref.iwate.jp/webdb/view/outside/s14Tokei/tyosaBtKekka.html/I002>

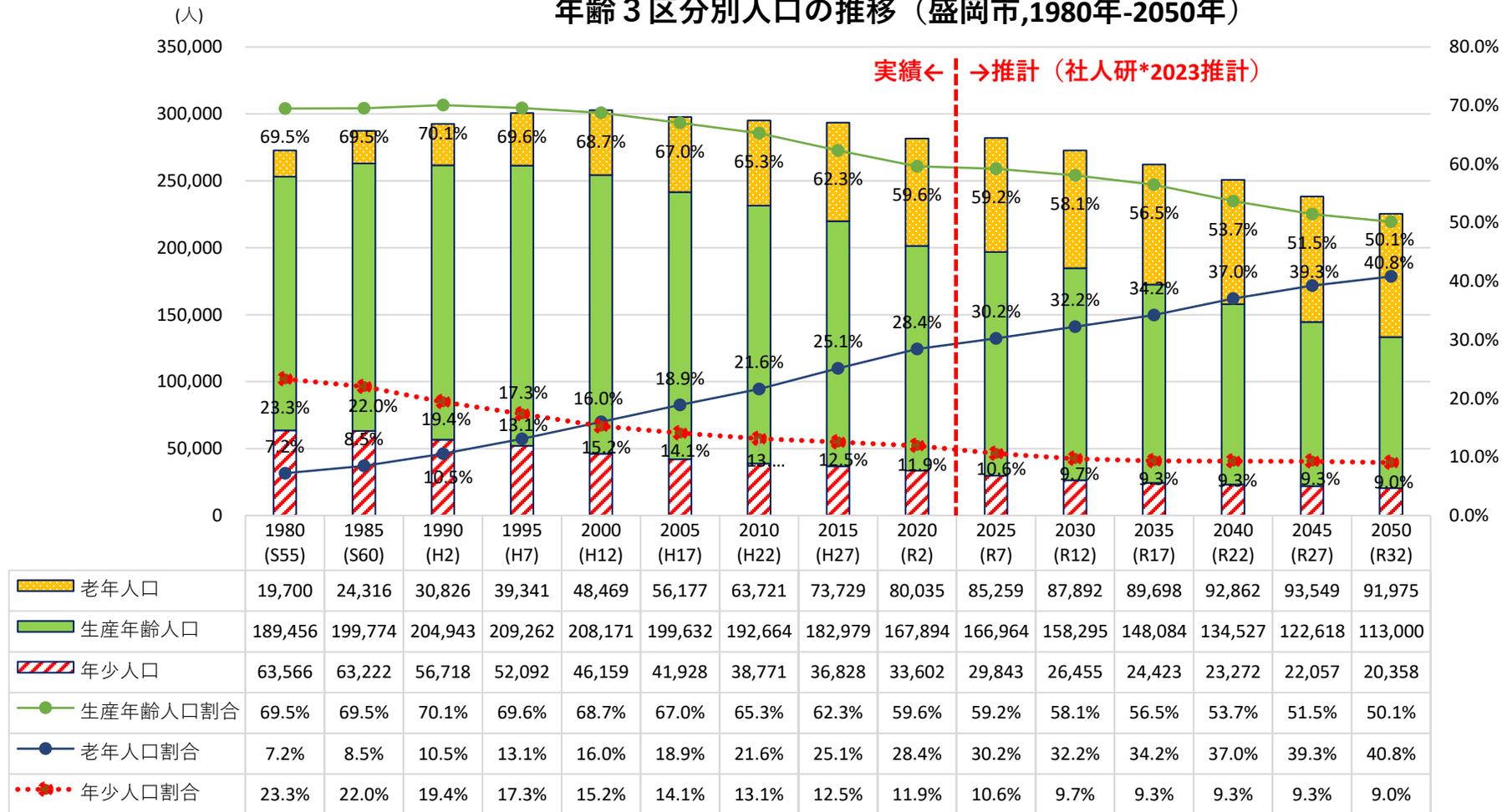
*組替人口…合併前の都南村・玉山村を含んだ人口

1 最新の人口動態

(2) 年齢3区分別人口の推移

- 主要な働き手となる生産年齢人口（15～64歳）の割合が減少する一方で、老年人口（65歳以上）の割合が継続的に増加している。
- 平成22（2010）年から令和2（2020）年にかけて、生産年齢人口は総人口の65.3%から59.6%へ減少し（5.7ポイントの減（△24,770人））、老年人口は総人口の21.6%から28.4%へ増加した。（6.8ポイントの増（+16,314人））
- 令和32（2050）年には、老年人口の割合が総人口の4割に高まる一方、生産年齢人口は5割に低下する見通しで、労働力不足の深刻化などが懸念される。

年齢3区分別人口の推移（盛岡市,1980年-2050年）

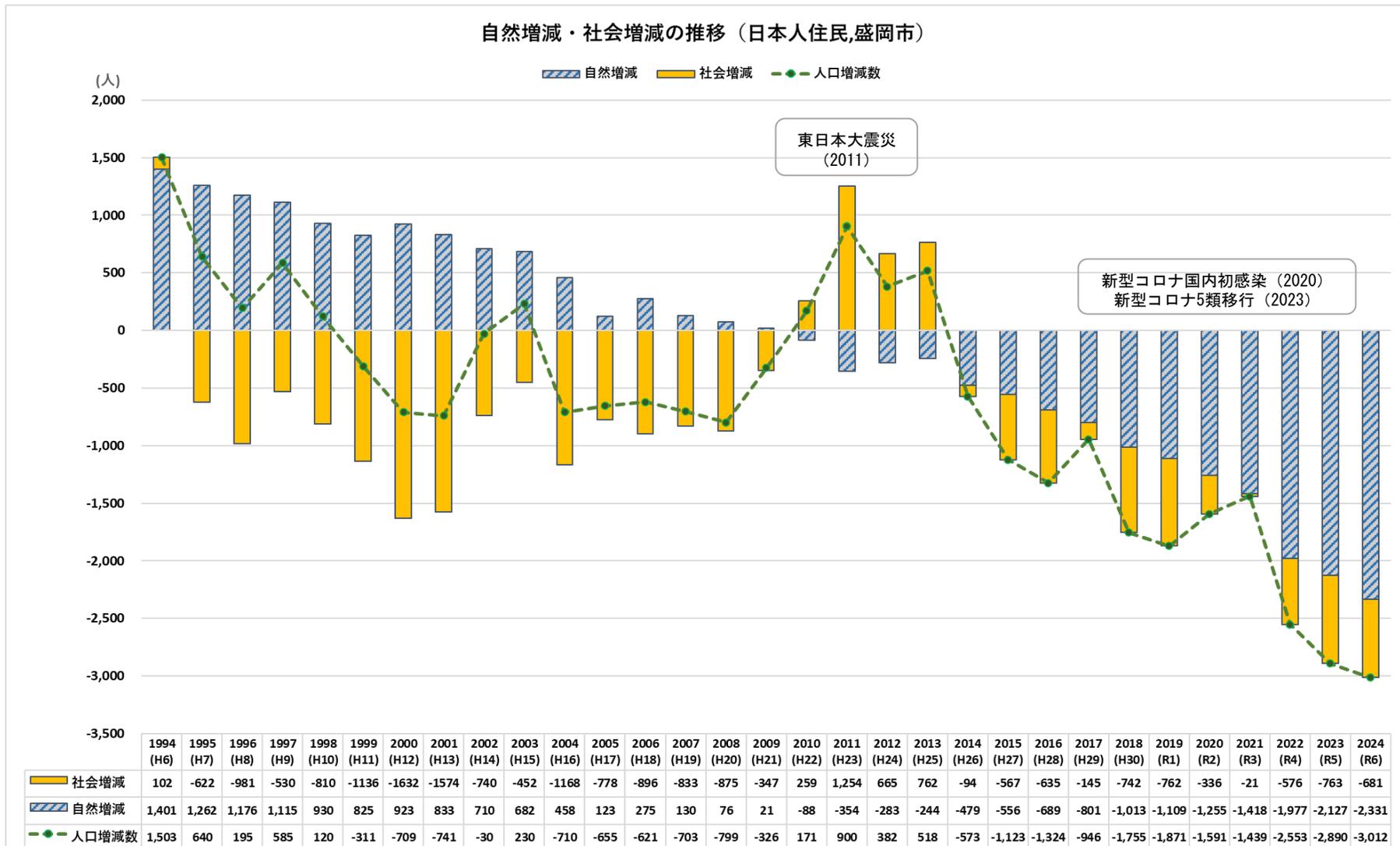


資料：（～2020年）国勢調査（合併前の数値を含む組替人口（1992年 旧都南村、2006年 旧玉山村）、市統計書（年齢不詳を除く。端数処理の関係で割合の合計が100%とならない場合がある。）
 （2025年～）*国立社会保障・人口問題研究所（社人研）「日本の地域別将来推計人口（2023年推計・市町村別）」https://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson23/2gaiyo_hyo/gaiyo.asp

1 最新の人口動態

(3) 自然増減・社会増減の推移（日本人住民）

- 自然動態は、出生者数の減少（少子化）と死亡者数の増加（高齢化）が同時に進行し、長期的に減少している。
- 社会動態は、平成7（1995）年以降転出超過が継続していたが、東日本大震災後の平成23（2011）年以降、沿岸部からの避難等により一時的に転入超過となる。平成26（2014）年頃より再び転出超過に転じ、令和2（2020）年～令和3（2021）年はコロナ禍の影響で転出超過数が一時的に減少したが、令和5（2023）年以降はコロナ禍前の水準まで転出超過が拡大している。



資料：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」（社会増加数・自然増加数） 各年1月～12月 合併前の旧玉山村を含む組替人口

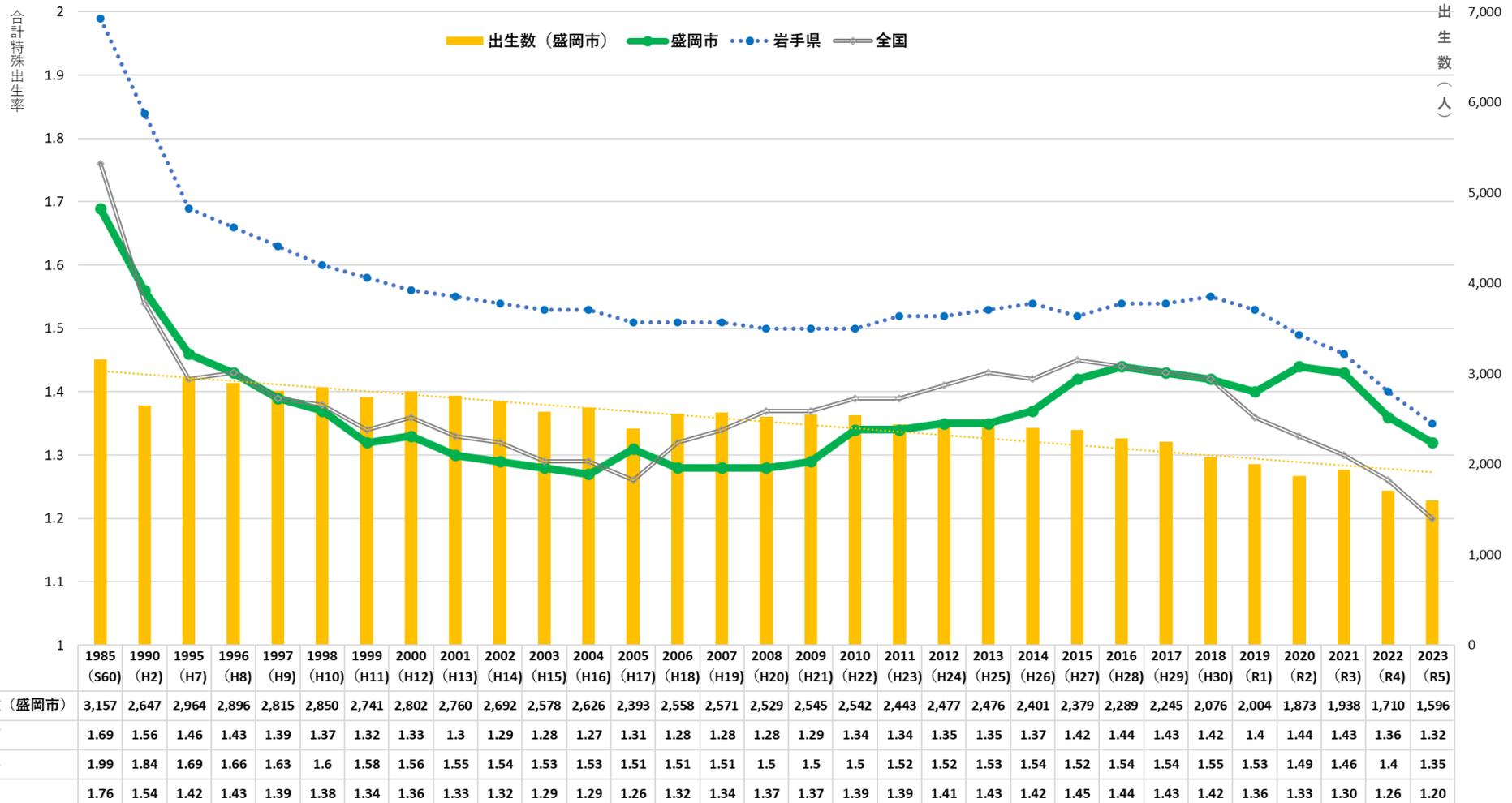
<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00200241>

1 最新の人口動態

(4) 合計特殊出生率の推移

- 本市の合計特殊出生率は長期にわたり減少傾向だったが、平成17（2005）年頃から上昇し平成27（2015）年には1.4人台に回復、その後再び下降傾向にある。
- 令和5（2023）年の盛岡市の合計特殊出生率は1.32で、岩手県の1.35を下回っているが全国の1.20を上回っている。
- 出生数は令和2（2020）年から2,000人を割り込む状態になり、減少が加速している。
- 出生率低下に影響を与えているといわれている「未婚化・晩婚化・若い世代の出生率低下・女性人口（15-49歳）の減少」が進行している。

合計特殊出生率（盛岡市・岩手県・全国）・出生数（盛岡市）の推移（1985年～2023年）



合計特殊出生率…15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの（一人の女性がその年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当）

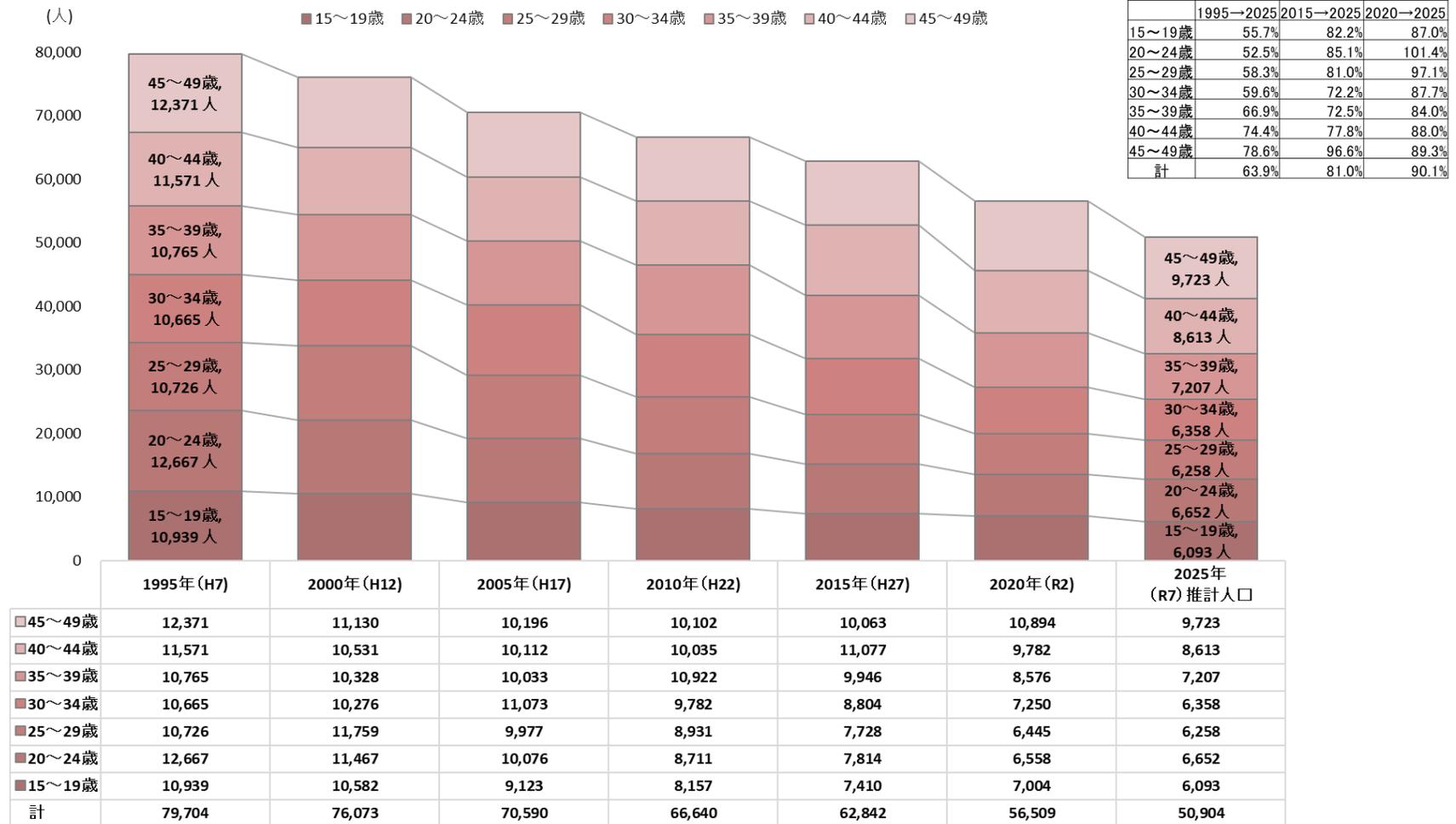
資料：令和7年度保健所概要 資料編「令和5年人口動態統計(盛岡市)」 <https://www.city.morioka.iwate.jp/kenkou/hokenjo/hokenjonitsuite/hokenjogaiyo/1049655.html>
 (岩手県は県「保健福祉年報」、全国は厚生労働省「人口動態統計」) (戸籍法により届けられた数が調査対象であり、住民票記載数に基づく出生者数(1-5、1-6)とは数値が異なる)

1 最新の人口動態

(5) 女性人口の推移（15歳～49歳）

- 合計特殊出生率の対象年齢である15歳～49歳の女性人口は、本市において年々減少しており、平成7（1995）年から令和7（2025）年で36.1%減、平成27（2015）年から令和7（2025）年で19.0%減、令和2（2020）年から令和7（2025）年で9.9%減となっている。
- 平成27（2015）年からの直近約10年では、子育て世代である30代女性の減少が目立つ。
- 令和2（2020）年から令和7（2025）年では、コロナ禍などの影響により20代女性の減少は他の年代に比べ抑えられていたが、社会情勢の変化に伴い、今後の動向に着目する必要がある。

女性人口の推移（15歳～49歳、盛岡市）

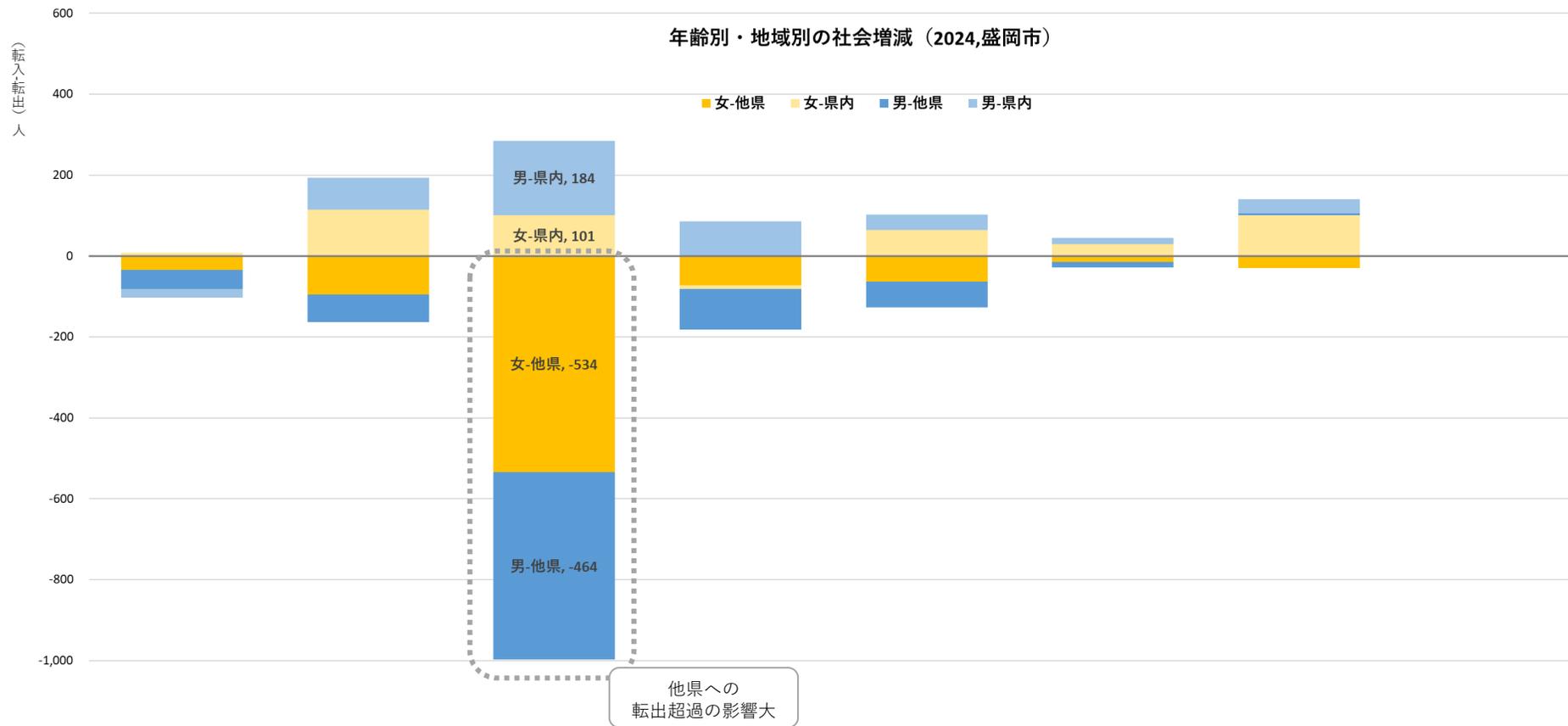


資料：岩手県人口移動報告年報（第7-3表 市町村別年齢別人口（5歳階級）） 合併前の旧玉山村を含む組替人口
<https://www3.pref.iwate.jp/webdb/view/outside/s14Tokei/keywordKekka.html/%E3%81%AD/%E5%B9%B4%E5%A0%B1>

1 最新の人口動態

(6) 年齢別・地域別（県内・県外）の社会増減の内訳

- 令和6（2024）年の地域別の社会増減では、10歳から19歳までの進学期を含む年齢層では、県内他地域からの転入超過があり減少が抑えられているが、20歳から29歳までの就職期に他県への転出超過が顕著であり、本市の社会減に大きな影響を与えている。
- 希望に合う就職先を求めて転出する若年層が多いと考えられることから、雇用の質の充実や選択肢を増やすなど魅力ある雇用の創出や、働きやすく暮らしやすい環境づくりなど、若年層が本市で働き、住み続けたいと思える取組を進めることが重要である。



	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	合計
男-県内	-21	80	184	86	39	14	35	417
男-他県	-48	-68	-464	-101	-63	-15	5	-754
女-県内	8	114	101	-8	64	30	101	410
女-他県	-34	-95	-534	-73	-64	-14	-30	-844
合計	-95	31	-713	-96	-24	15	111	-771

資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告 参考表」（年齢（10歳階級）、男女、移動前の住所別転入・転出者数）
<https://www.stat.go.jp/data/idou/sankouhyo.html>

1 最新の人口動態

(7) 地域ブロック別の社会増減の内訳（男女別）

- 令和6（2024）年の本市の主な転出超過地域は、男女とも、「東京圏」「仙台市」、転入超過地域は「県内（盛岡広域以外）」「青森県・秋田県」の順が多い。
- 男女別では、女性は男性の約1.3倍転出超過数が多い。



資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告 参考表」（年齢（10歳階級）、男女、移動前の住所別転入・転出者数）
<https://www.stat.go.jp/data/idou/sankouhyo.html>

2 Uターンに関する意識調査の分析結果

(1) 概要・分析結果

ア 趣旨

令和6年度に実施した、岩手県立大学との協働研究「盛岡市へのUターンに関する意識調査」について、属性による分析を行うとともにインタビュー調査を行うことで、アンケート調査では把握に至らなかった具体的な転出理由等について明らかにし、今後の人口対策に資する施策を展開するうえで参考とするもの。

イ 「盛岡市へのUターンに関する意識調査」の概要

- ▶調査対象者：令和5年4月1日から令和6年3月31日に、盛岡市から東京圏（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）及び宮城県へ転出した18歳以上40歳未満（令和6年3月31日現在）の方2,856人
- ▶対象者抽出：無作為抽出調査方法：Webアンケート
（回答フォームの二次元コードとURLを記した調査協力依頼を対象者に郵送）
- ▶調査期間：令和6年7月23日～8月25日
- ▶回収数：504票
（回収率19.0% ※宛所不明等による対象者への不着除き）

ウ 分析の手法

- (1) 「盛岡市へのUターンに関する意識調査」の結果（転出理由、Uターン意向及び希望業種等）について、男女別の傾向を分析するためクロス集計を行った。
- (2) 特に転出傾向が顕著な若年層のより具体的な意向やニーズを把握するため、「盛岡市へのUターンに関する意識調査」の調査項目をベースに、岩手県立大学の学生12名にインタビュー調査を行った。
 - ▶ 男性6名、女性6名
 - ▶ 市内出身者4名、市外出身者8名
 - ▶ 岩手県立大学4年生5名、同3年生3名、同盛岡短期大学2年生4名

エ 分析結果

男女別クロス集計の結果及び大学生へのインタビュー調査の結果については、次ページ以降に記載のとおり。

オ 考察と今後の課題

(1) 女性や若年層のUターンを見据えた取組

- ▶アンケート調査結果の分析から、転出理由について「都会で生活したかった」と答える割合は、男性よりも女性の方が高いことが明らかとなった（P9参照）。さらに、学生へのインタビューでも、特に女性から「娯楽などが充実している都会での生活に憧れる」という意見があり、職場環境のみならず生活環境に起因する転出が一定数あることが分かった。
- ▶一方、東京圏等へ転出予定の学生の多くは、男女問わず都会に永住したいという強い意向や盛岡の生活環境に対する不満が必ずしもあるものではなく、「いずれは盛岡に戻りたい」と考える学生も一定数存在することが明らかとなった。
- ▶以上より、人口対策の観点からは、転出を抑制する取組のほか、転出後も関係人口として盛岡とつながりを持ち続けられる取組や、一度転出した人達が結婚・出産などのライフイベントを契機に「盛岡に戻りたい」と思える環境整備を進める取組が必要であり、特にも、既婚女性や20代後半以降の女性のUターン意向が低く、Uターンの条件として子育て環境や子どもの教育環境を重視する女性が多いため（P12・14・15参照）、引き続き子育て環境・子どもの教育環境を充実させる取組が重要である。

(2) 働き方や就職活動の多様化に対応した取組

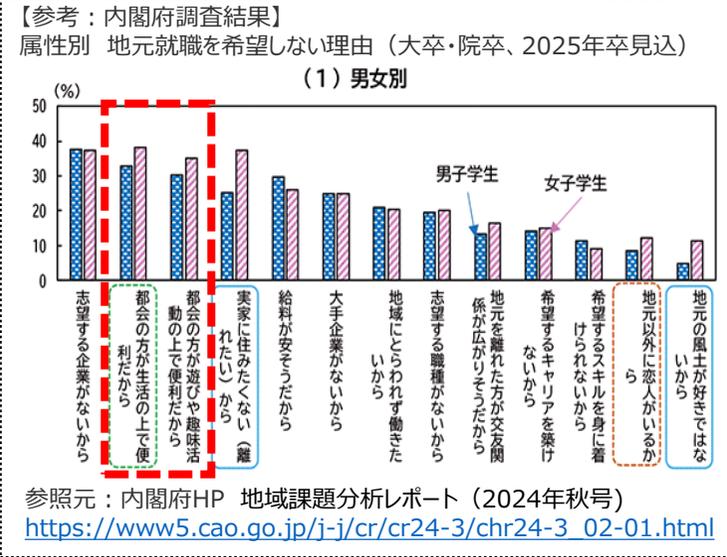
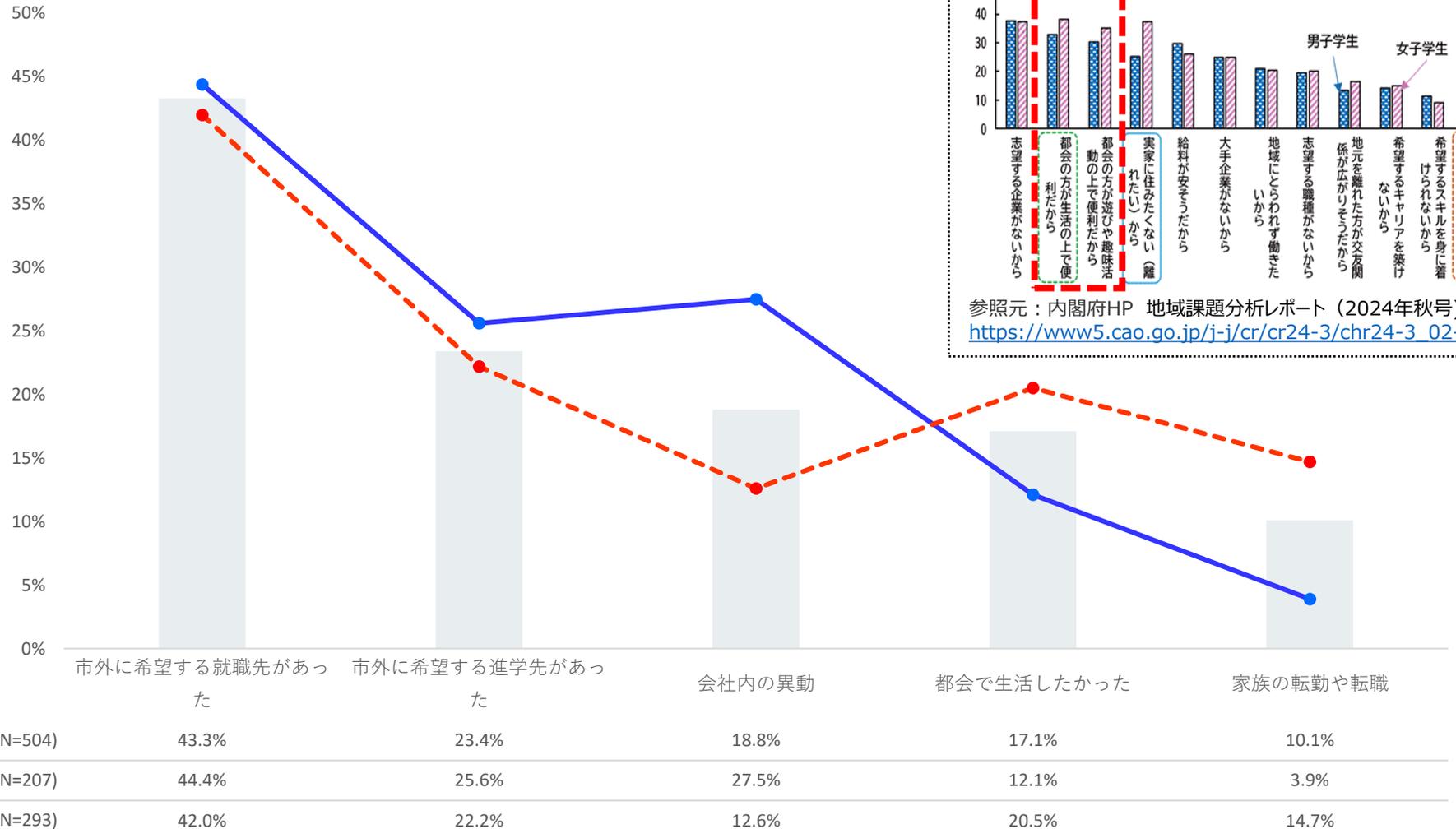
- ▶アンケート調査結果からは、就職先への主な希望として「職種」や「給料」を重視する傾向が見られたが（P10参照）、インタビュー調査では「給与が高いに越したことはないが、それ以上にリモートワークやフレックスタイム制等を導入している職場環境を重視した」という意見もあり、柔軟な働き方を求めて就職先を決める学生がいることも分かった。
- ▶また、現在は就活サイトを利用した就職活動が主流とのことであり、学生からは「柔軟な働き方ができる市内の就職先の情報が少ない」、「市内のIT・インフラ系以外の情報が探しにくい」という意見もあったことから、働き方改革等の労働環境の改善はもとより、情報が十分に伝わるよう、企業側が適切に情報発信を行うことも必要である。
- ▶学生へのインタビュー結果から、現代の学生は生涯同じ企業で働く前提ではなく、転職やステップアップを見据えてまずは都会で働きたいと考える学生も一定数いることが分かった。このような就職先を探す学生のマインドの変化に対応するため、企業側においても、Uターン希望者等を受け入れる中途採用も視野に、労働環境の整備や採用ブランディングに取り組むことも重要である。

2 Uターンに関する意識調査の分析結果

(2) 主な転出理由（男女別）

- 全体の特徴をみると、「市外に希望する就職先があった」の割合が最多となっており、男女問わずに希望する就職先を求めて転出する傾向が強い。
- 男女別の特徴としては、男性は女性に比べて「会社内の異動」を選択する割合が高く、女性は男性に比べて「都会で生活したかった」を選択する割合が高くなっており、男性は転勤等による転出が多い一方、「都会で生活したい」といった都会志向は女性に多い傾向が読み取れる。
- 国が実施した調査結果からも、女性の三大都市圏への社会増減が多い背景には、都会の生活環境があることが読み取れる。

主な転出理由（男女別） ※複数回答可

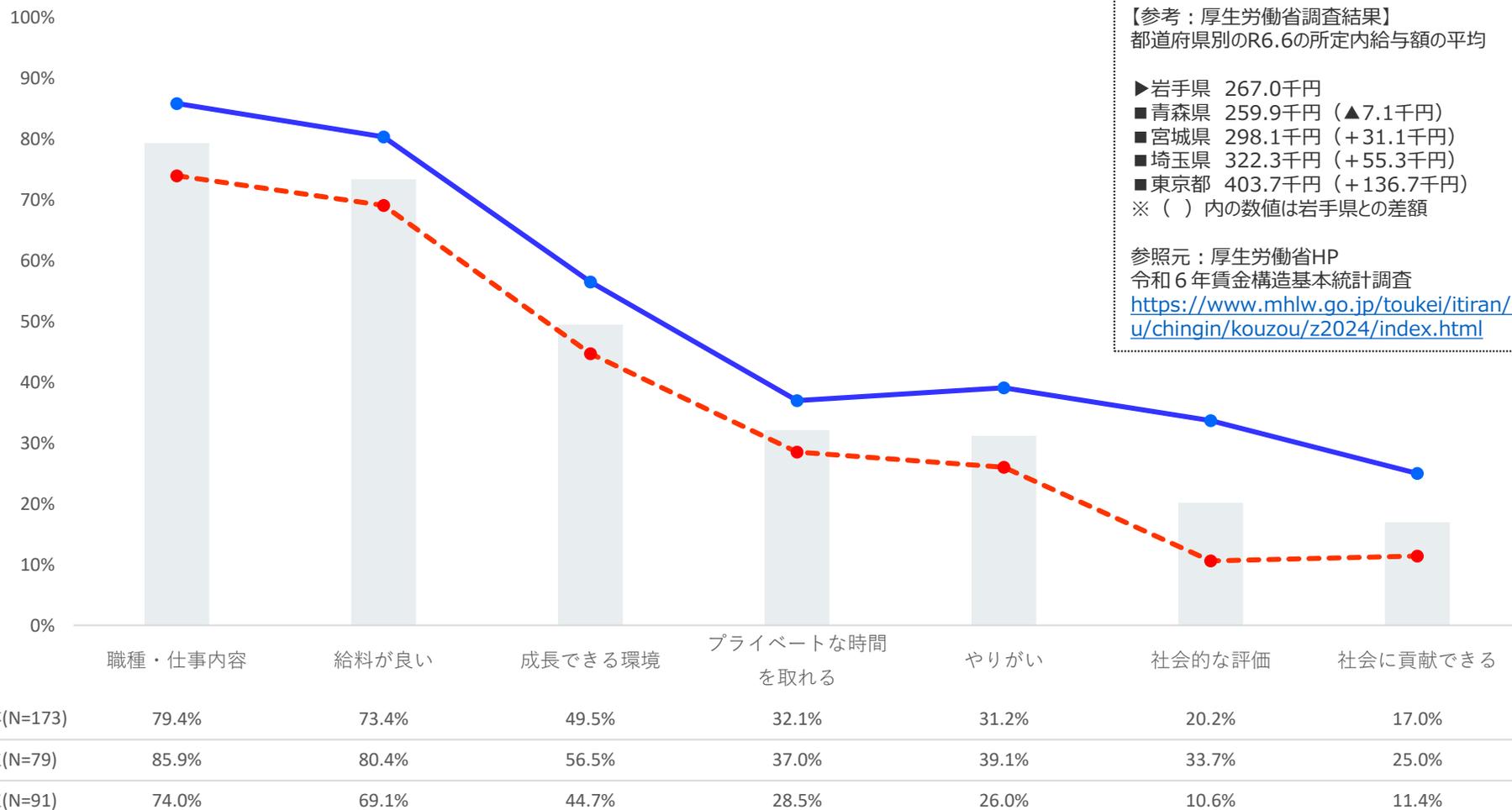


2 Uターンに関する意識調査の分析結果

(3) 「市外に希望する就職先があった」人の就職先への主な希望（男女別）

- 全体の特徴をみると、「市外に希望する就職先があった」の割合が最多となっており、男女問わずに希望する就職先を求めて転出する傾向が強い。
- 男女別の特徴としては、本項目は複数回答であるが、どの選択肢を選んだ割合も男性の方が高く、男性の方が就職先へ求める希望が多岐に渡ることが推測される。また、男女別で特に差があった項目は「社会的な評価」、「社会に貢献できる」となっており、男性の方が給料以外にも社会的評価や社会への貢献度を重視する傾向が見られる。

就職先への主な希望（男女別・出身地問わず）※複数回答可

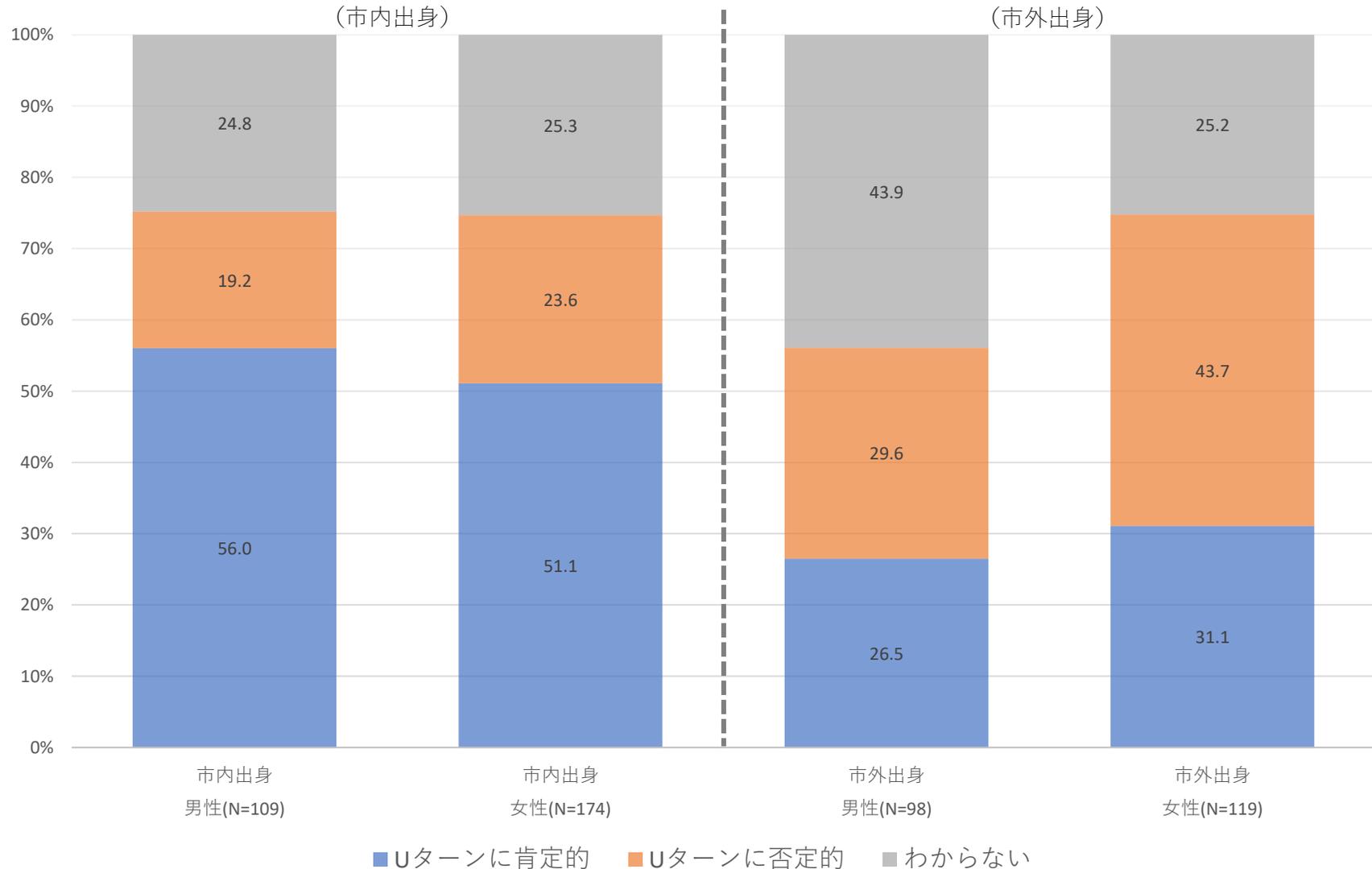


2 Uターンに関する意識調査の分析結果

(4) ① 盛岡市へのUターン意向（男女別・出身別）※市内、市外出身者ともに「盛岡市へ戻りたいと思うか」について調査したもの

- 男女別かつ盛岡市内出身・市外出身に分けて分析すると、市内出身者は男女ともにUターンに肯定的な人の割合が過半数を占めるが、女性の方がUターンに否定的な人の割合が高い。
- 市外出身者は、男女ともにUターンに肯定的な人の割合が3割程度に留まり、特に女性はUターンに否定的な割合が高く、男性は分からないと回答した人の割合が高い。
- このことから、女性の多様なニーズに寄り添った環境づくりについて、さらなる充実を図る余地があることが考えられる。

盛岡市へのUターン意向（男女別）



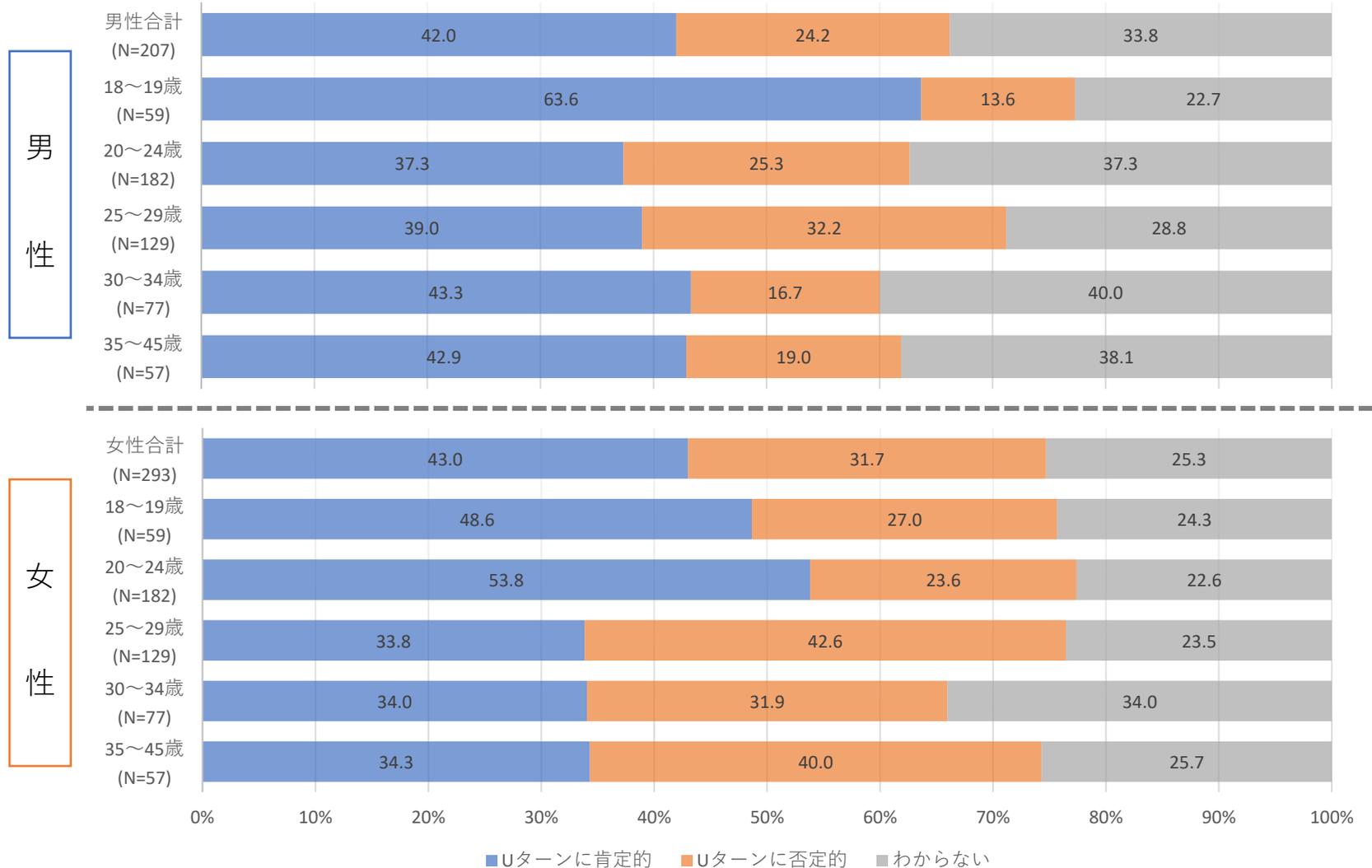
2 Uターンに関する意識調査の分析結果

(4) ② 盛岡市へのUターン意向（男女別・年齢別）

- Uターンに肯定的な人の内訳を見ると、男性は18～19歳が最も多く、女性は20～24歳が最も多い。
- Uターンに否定的な人の内訳を見ると、男性は25～29歳が最も多く、女性は25～29歳が最も多い。
- 特に女性は24歳まではUターンに肯定的だが、25歳以降は否定的な傾向が読み取れることから、結婚・出産を経験した女性にとって魅力的な環境の構築に、より一層注力する必要があると考えられる。

（▶女性の平均初婚年齢：29.8歳 ▶第1子出生時の母の平均年齢：31.0歳 ※厚生労働省「令和6年人口動態統計」より）

盛岡市へのUターン意向（男女別・年齢別）

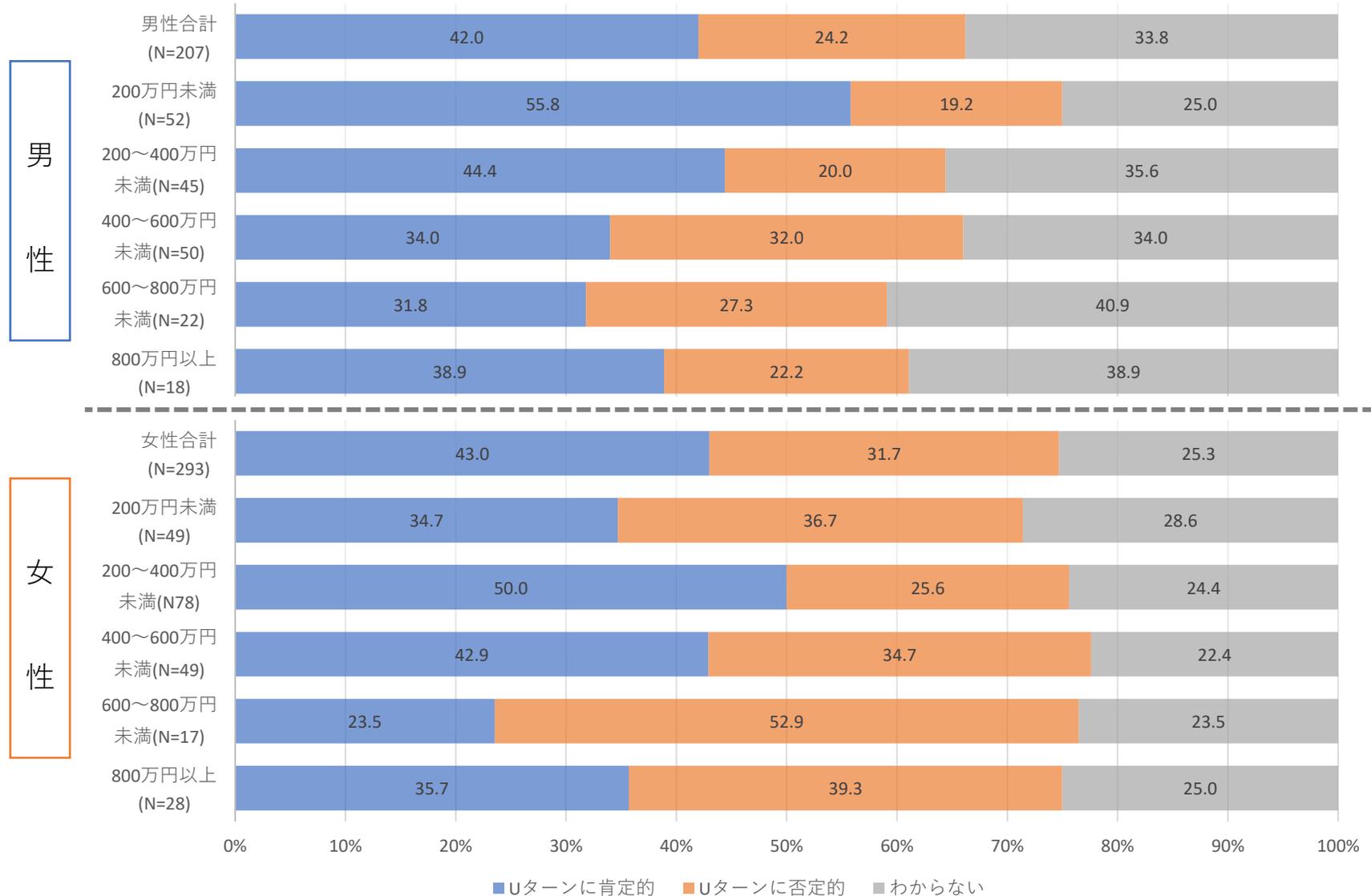


2 Uターンに関する意識調査の分析結果

(4) ③ 盛岡市へのUターン意向（男女別・世帯年収別）

- Uターンに肯定的な人の内訳を見ると、男性は年収200万未満が最も多く、女性は400～600万未満が最も多い。
- Uターンに否定的な人の内訳を見ると、男性は400～600万未満が最も多く、女性は600～800万未満が最も多い。
- 女性は高年収であるほどUターンに否定的な傾向が読み取れることから、本市においても女性が現在の能力を十分に活かし、希望するキャリアを実現できる職場環境を拡充する施策が重要であると考えられる。

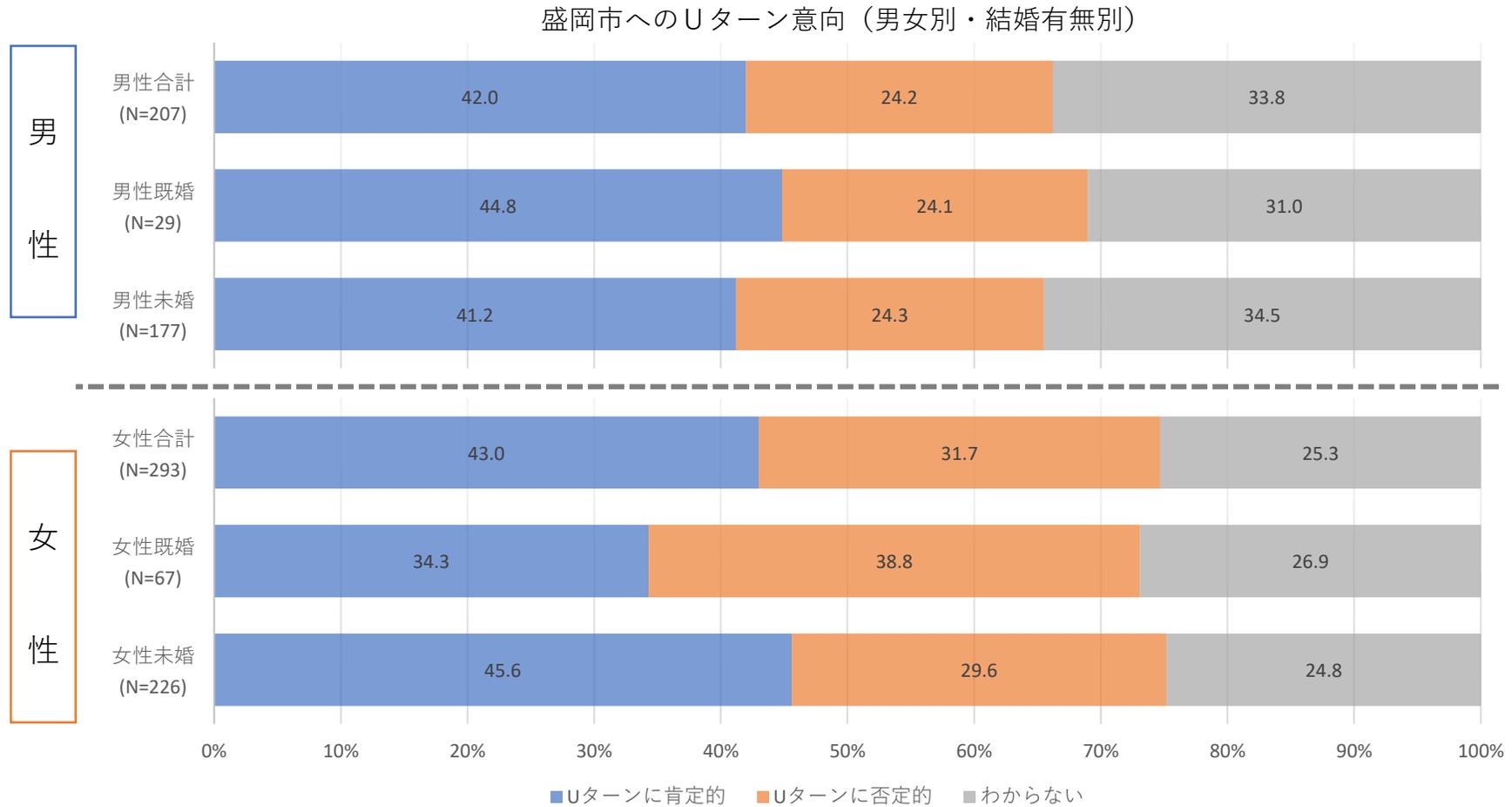
盛岡市へのUターン意向（男女別・世帯年収別）



2 Uターンに関する意識調査の分析結果

(4) ④ 盛岡市へのUターン意向（男女別・結婚有無別）

- Uターンに否定的な人は、男性は結婚有無による差がほぼ見られない一方で、女性は既婚者の方が10%程度割合が高い。
- 既婚女性の方がUターンに否定的な割合が高い傾向と、女性が後述のUターンの条件として「子育て環境・子どもの教育環境が良い地域で生活が送れる場合」を選ぶ割合が高いことを合わせて考察すると、首都圏等に住む女性が求めるより高い水準の教育・保育ニーズにきめ細やかに対応していく必要があると考えられる。



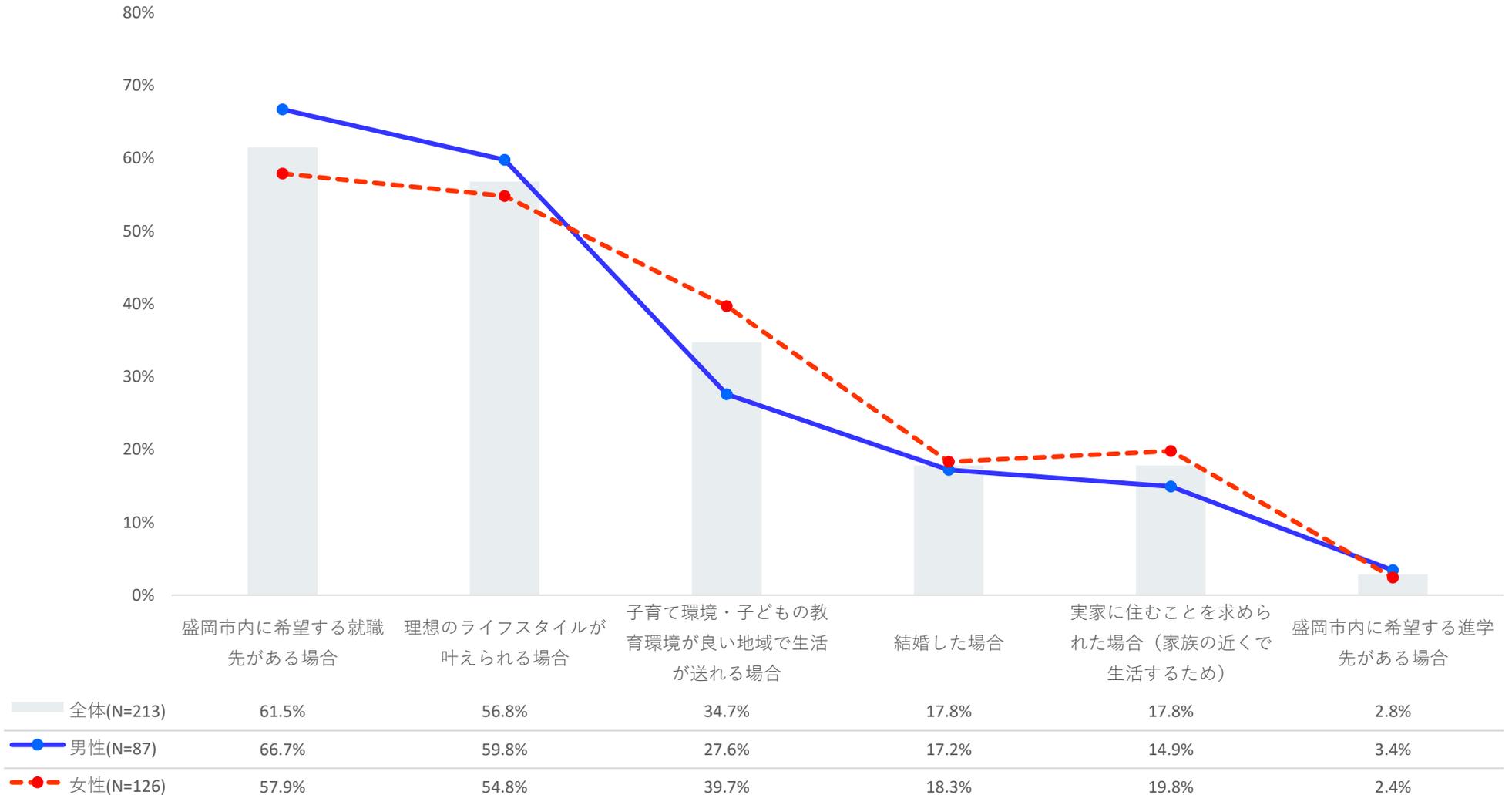
2 Uターンに関する意識調査の分析結果

(5) 「Uターンに肯定的な意見を持つ人」が戻るための条件（「どのような条件が揃った場合に戻りたいか」）（男女別）

■ Uターンの条件として、男女ともに市内に希望する就職先がある場合や、理想のライフスタイルが叶えられる場合を選ぶ割合が高い。

■ 女性は特に「子育て環境・子どもの教育環境が良い地域で生活を送れる場合」を選ぶ割合が高く、子どもを中心とした視点でUターンを検討していることが読み取れる。

Uターンの条件（男女別）※複数回答可

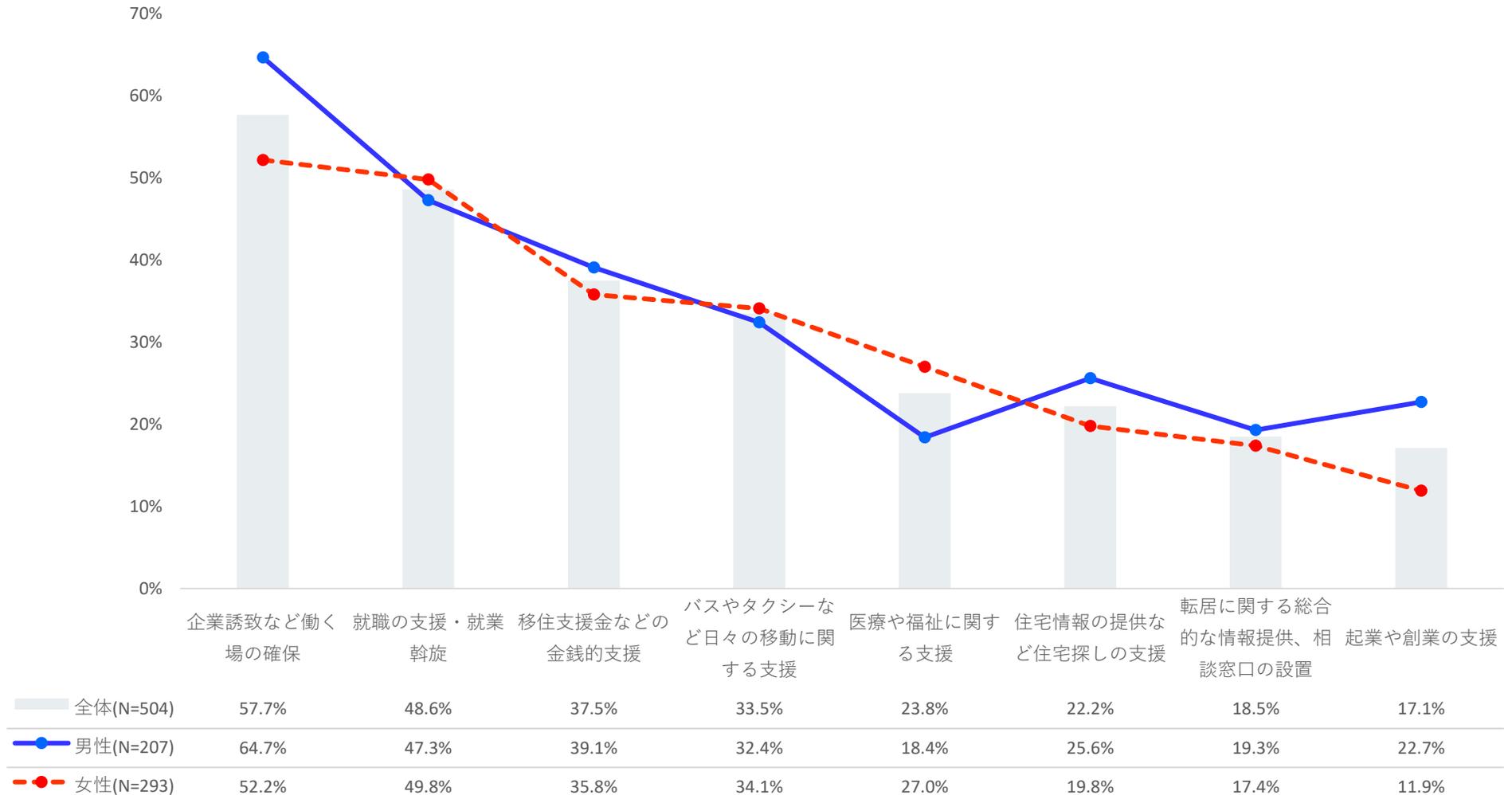


2 Uターンに関する意識調査の分析結果

(6) Uターンをしやすくするために必要な支援（男女別）

- 男女ともに、働く場の確保や就業支援等の「しごと」に関する支援を求める割合が高い。
- 男性は起業・創業の支援や住宅情報の支援を求める割合が女性より高く、女性は医療や福祉に関する支援を求める割合が男性より高い。

Uターンに必要な支援（男女別） ※複数回答可



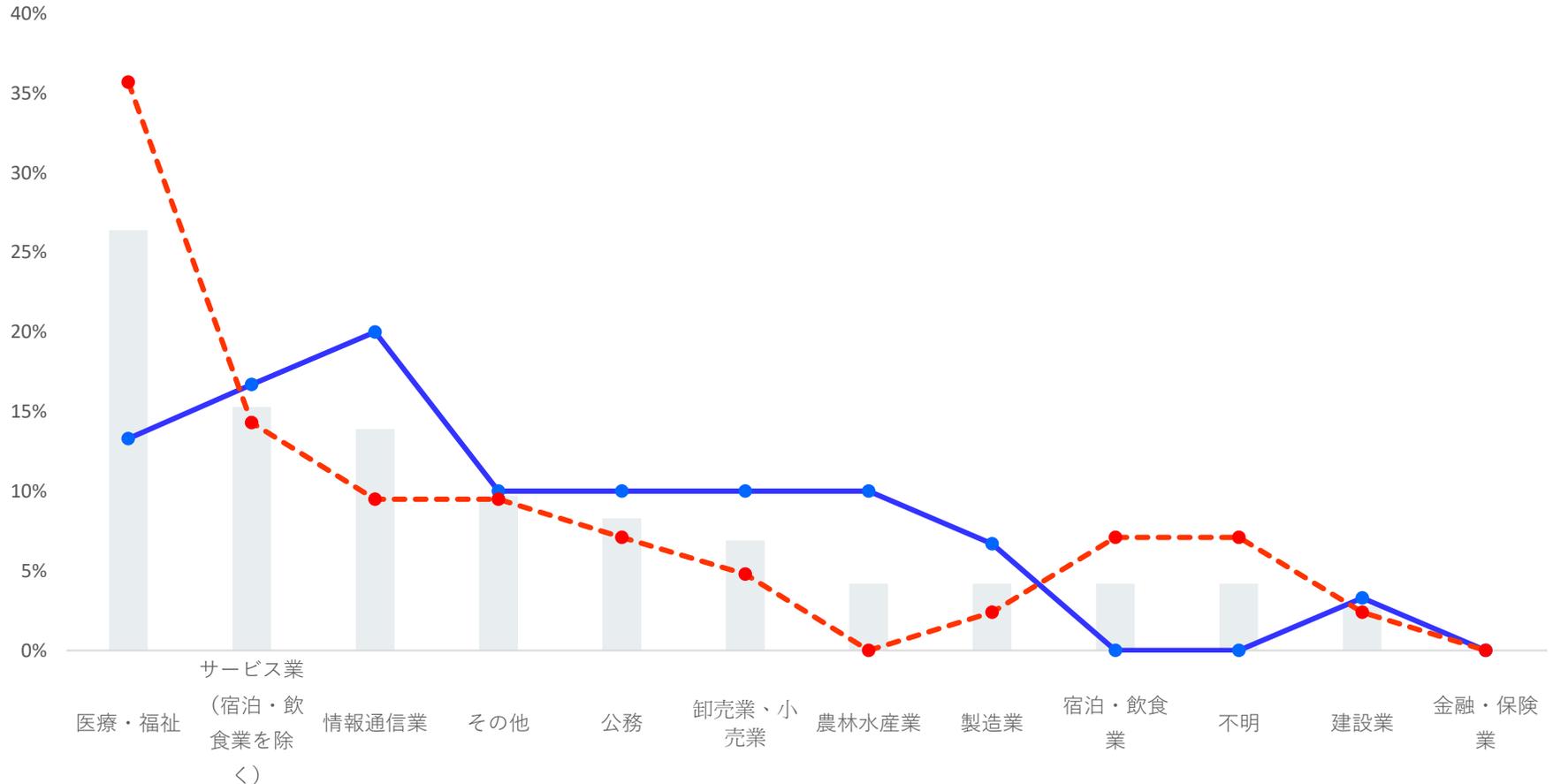
2 Uターンに関する意識調査の分析結果

(7) 市外に希望する就職先があった人のUターンの条件が揃った場合の希望業種（男女別）

■市外に希望する就職先があった人がUターンの条件が揃った場合に希望する業種として、男性は情報通信業が最も多く、女性は医療・福祉が最も多い。

■本市では特に女性の転出超過が顕著であるため、医療・福祉分野の業種における雇用の拡大や待遇の向上が効果的であると推測される。

Uターンの条件が揃った場合の希望業種（男女別）



全体(N=218)	26.4%	15.3%	13.9%	9.7%	8.3%	6.9%	4.2%	4.2%	4.2%	4.2%	2.8%	0.0%
男性(N=92)	13.3%	16.7%	20.0%	10.0%	10.0%	10.0%	10.0%	6.7%	0.0%	0.0%	3.3%	0.0%
女性(N=123)	35.7%	14.3%	9.5%	9.5%	7.1%	4.8%	0.0%	2.4%	7.1%	7.1%	2.4%	0.0%

2 Uターンに関する意識調査の分析結果

(8) 学生へのインタビュー調査結果（主な質問項目及び回答結果）

【問1】「盛岡で生活したいと思いますか。また、その理由を教えてください。」

（肯定的な回答）

- ▶ 生活に必要なものや娯楽など、最低限のものは整っており不自由がないため、住みやすいと思う。
- ▶ 何一つ不自由なく生活できている。車が好きなので車社会であることが逆に嬉しい。
- ▶ 地元が田舎なので盛岡は都会と感じるし住みやすい。都会からのアクセスも良い。
- ▶ 自然と都会的要素が調和した部分が他都市にはあまりない魅力だと感じる。

（否定的な回答）

- ▶ 社会が狭すぎると感じることはある。
- ▶ 車を持っていないため、バスや電車の便がどんどん減っており不便に感じることもある。

【問2】「都会で生活したいと思いますか。また、その理由を教えてください。」

（肯定的な回答）

- ▶ 半々の気持ちではあるが、休日に多くの店を周りたりすることに憧れはある。
- ▶ 友人からの話を聞いていると、若いうちの5年間くらいは都会で生活してみたいと思うが、ずっとは生活したくない。
- ▶ 好きなアイドルなどに会いやすい都会の環境には魅力を感じるが、30代頃から盛岡に戻りたいという気持ちはある。

（否定的な回答）

- ▶ 盛岡くらいの人口規模が丁度よいと思うので都会で生活したくはない。
- ▶ 通勤通学で満員電車に乗るのはストレスが溜まると思う。車が趣味だが、都会では車を持つのが難しく趣味が削られる。

【問3】「盛岡で働きたいと思いますか。また、その理由を教えてください。」

（肯定的な回答）

- ▶ 都会すぎるよりも、盛岡で働いた方が、人とのコミュニケーションが深くとれるためやりがいがあると思う。

（否定的な回答）

- ▶ 都会の方が待遇面（給料や福利厚生）が充実していて仕事を探しやすい。
- ▶ 都会は企業の数が多く、転職する場合に選択肢が広い点が良いと思っている。
- ▶ 都会の企業は採用面接などを通じて企業の雰囲気が見えてくるが、盛岡はスタンダードな面接手法が多く、企業の特徴や雰囲気が見えてこない印象を受けた。
- ▶ 元々地元（岩手県内）で公務員になると決めていたので選択肢になかった。

【問4】「就職先に何を希望（重視）しましたか？」

- ▶ 地元への貢献を最も重視した。東日本大震災の際に役場の人々が助けてくれた記憶があり、自分も地元で恩返しをしたいと思った。
- ▶ ワークライフバランスを重視した。週2出勤で週3は自由という働き方ができる会社を選んだ。
- ▶ プライベートな時間を確保できることと成長できる環境を重視した。土日祝日休みでフレックスもあり、若い環境で成長できる会社を選んだ。職種ややりがいに関してはそこまで重視しなかった。給与は最初それなりでも今後上がりそうという期待もあって会社を選んだ。
- ▶ 都会の方が採用面接などを通じて企業の雰囲気が見えてくるが、盛岡はスタンダードな面接手法が多く企業の特徴や雰囲気が見えてこない印象。
- ▶ 給料を含めた福利厚生とネームバリュー、やりがいを重視した。転職を考えたときにも有利になる会社を選んだ。

2 Uターンに関する意識調査の分析結果

【問5】「就職先の情報はどのように調べましたか？」

- ▶ 主にマイナビで調べた。大学の企業説明会にも参加したが、ゼミの先輩からの紹介で内定先の企業を受けることにした。
- ▶ リクナビのスカウト機能を利用した。条件に合った企業からインターンのオファーが来て、それがきっかけで就職した。
- ▶ マイナビも登録しているが、連絡の数が多くなってしまうので、一旦シャットアウトしてエージェントとの面談を通じて探している。
- ▶ 学校が開催する合同説明会も活用した。

【問6】「盛岡市の企業の情報は充実していると感じますか？」

- ▶ 自分は盛岡市内で働きたかったのでマイナビで市内企業の情報を探したが、マイナビに登録していない企業がそれなりにある印象を受けた。エージェント制度を活用した友人はマイナビに載っていない企業を紹介してもらっていたが、サイト上だけで就活するような人は企業の情報を知らないままになってしまうと感じた。
- ▶ 就活サイトで調べる分には、都会の方が企業数も多く待遇が良いところが沢山出てくるが、盛岡にも待遇の良いところは実はある感じがするのに、パッと出てこないのを見つけるのが大変な印象を受けた。
- ▶ マイナビに企業側が登録する福利厚生を元に学生はフィルタで絞ったりできるが、そこにフレックス・リモートワーク有のチェックをつけていない企業が多い。特に中業企業が、実際に説明会を受けて見てフレックスできますよと説明を受けることが多い印象を受けた。大企業でも更新漏れはあるが、基本的に正確に更新されているイメージ。その傾向は大企業と中小企業の違いであって、都会と盛岡で違いがあるという印象はない。
- ▶ リクナビにはスカウト機能があるが、マイナビにはない。スカウト機能でインターンを受けませんか？という連絡が来たりする。盛岡市内の企業からもスカウトは来るが、福利厚生の1つの要素だけを突合して「希望に合いますがどうですか？」という連絡が来るが、それ以外の条件が全く希望通りでない企業が多かった。

【問7】「アンコンシャスバイアスを感じることはありませんか？」

(いずれの学生からも感じたことはあるとの回答はなかった)

【問8】「盛岡に住む人やUターンする人を増やすためにはどんな取組が必要だと思いますか？」

- ▶ 地方ならではの強みを生かすべき。子育てしやすい環境や、ワークライフバランスを充実させられる点、農林水産業の選択肢などをアピールすると良い。
- ▶ 都会に住む知り合いが、ここでは子どもを育てられないと言っていることを聞いたこともあり、子育てに対する補助金のようなものが重要と思う。
- ▶ 宮城県のように就活生向けの交通費補助があると、盛岡の企業も受けやすくなると思う。さらに、そういった制度の申請手続きが簡単であることも重要と思う。
- ▶ 県内で就職する場合に奨学金の返済を一部負担するなど、Uターンする人への経済的支援があると戻りやすくなるのではないかなと思う。
- ▶ 自分は食品関係の職種希望だが、そういったジャンルで企業を検索することができないので、職種ごとにまとめた就活サイト等があると、盛岡の企業を探しやすくなると思う。現状、特定の業種（IT、インフラ系）以外の企業情報が見つかりにくいと感じる。
- ▶ 子育てにはお金がかかるので、子育てしやすい環境が非常に重要だと感じる。
- ▶ 学生などの若者に希望や理想像を聞いて、その意見を取り入れていくことが重要だと思う。
- ▶ 実際に盛岡に移住した人が盛岡のどこに魅力を感じたのか明らかにすることが必要だと思う。
- ▶ 東京都にあるアンテナショップを活用した移住相談会の実施、移住について取り上げているテレビ番組で紹介してもらなども良いのではないかな。